

= 近年、大規模化・多発化する自然災害 =

地震【全国被害】

- 2008.6 岩手宮城内陸地震【死者・行方不明23名, 住家全壊28棟】
- 2007.7 新潟県中越沖地震【死者15名, 住家全壊1319棟】
- 2007.3 能登半島地震【死者1名, 住家全壊684棟】
- 2005.3 福岡県西方沖地震【死者1名, 住家全壊133棟】
- 2004.10 新潟県中越地震【死者68名, 住家全壊3175棟】
- 2003.9 十勝沖地震【死者・行方不明2名, 住家全壊116棟】
- 2003.7 宮城県北部地震【住家全壊1276棟】
- 2001.3 芸予地震【死者2名, 住家全壊70棟】
- 2000.10 鳥取西部地震【住家全壊435棟】



○ 広島県において発生が危惧される地震及び想定被害の状況

想定地震	地震タイプ	気象庁マグニチュード M	今後30年以内の発生確率(*1)	平成19年3月報告書による被害		
				死者数	負傷者数	住家被害(全壊)
1) 東南海・南海地震	プレート間	8.5	南海:50% 東南海:60%~70%	約30人	約710人	約5500棟
2) 己斐断層による地震	地殻内	6.5	不明	約800人	約12000人	約16000棟
3) 五日市断層による地震	地殻内	7.0	不明	約3400人	約19000人	約32000棟
4) 岩国断層による地震	地殻内	7.6	0.03%~2%	約1000人	約7600人	約18000棟
5) 中央構造線(石鎚山北縁)による地震	地殻内	8.0	0%~0.3%	約130人	約3000人	約5700棟
6) 中央構造線(石鎚山北縁~伊予灘)による地震	地殻内	8.0	0%~0.3%	約130人	約3000人	約5600棟
7) 安芸灘~伊予灘の地震	プレート内	7.25	40%	約170人	約4400人	約5800棟
どこでも起こりうる直下地震	地殻内	6.9	-	-	-	-

*1: 国の地震調査研究推進本部の公表値(算定基準日:平成20年1月1日)

生き埋めや閉じ込められた際の救助状況 ~阪神・淡路大震災~

誰が救助	割合	自助・共助・公助の別
自力	34.9%	自助 66.8%
家族	31.9%	
近隣住民	28.1%	共助 30.7%
通行人	2.6%	
救助隊	1.7%	公助 1.7%
その他	0.8%	

出典 (社)日本火災学会

災害から人命を守るためには、「自助」「共助」による速やかな対応が不可欠



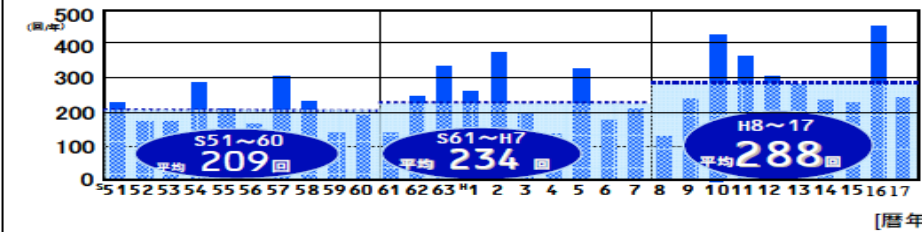
台風・豪雨等(広島県被害者数)

- 2008.8 愛知県を中心に東海・関東・中国地方等で記録的な大雨(福山市・東広島市で1時間雨量の観測史上1位を更新)
- 2008.1 豪雪(死者2名)
- 2006.9 台風13号(死者・行方不明2名, 住家全壊4棟)
- 2005.12 豪雪(死者4名, 住家全壊3棟)
- 2004.9 台風18号(死者5名, 住家全壊27棟)
- 2002.8 豪雨(死者3名, 住家全壊1棟)
- 1999.9 台風18号(死者5名, 住家全壊2棟)
- 1999.6 豪雨(死者・行方不明32名, 住家全壊101棟)



時間雨量50mm以上の降雨の年間発生回数

1時間降雨量における年間延べ件数
(全国のアメダス地点約1,300箇所より)

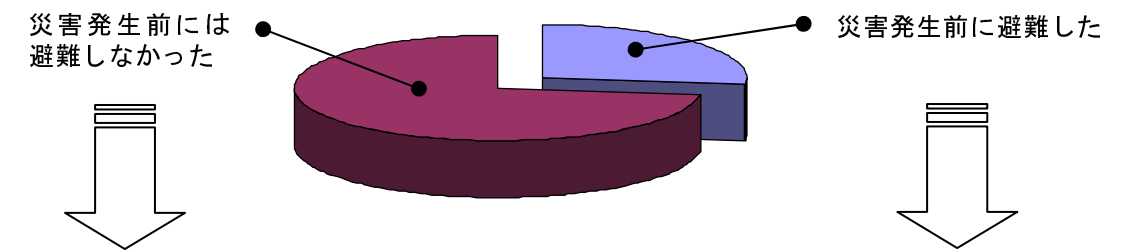


(全国のアメダス地点1300箇所より)

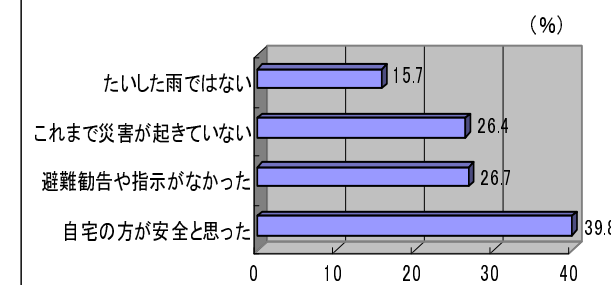
出典 国土交通省資料

近年の土砂災害に係る住民避難の実態

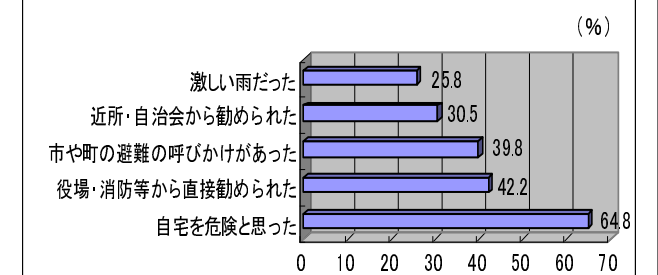
災害発生前に避難した人は27%であった。



『建物の外に避難しなかった理由』(複数回答)



『災害前に避難したきっかけ』(複数回答)



*H18年7月豪雨時において土砂災害が発生した10地区に対するアンケート(国交省砂防部調査)